

過去の診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院腎センター・リウマチ膠原病科および虎の門病院分院腎センター・リウマチ膠原病科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめるものです。この案内をお読みにになり、ご自身やご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「ご自身やご家族の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

2012年12月～2016年7月に、糖尿病による慢性腎臓病（透析を含む）のために虎の門病院および分院に入院・通院し、経口糖尿病薬による治療を受けられた方

【研究課題名】

Dipeptidyl peptidase-4 (DPP4) 阻害薬による腎性貧血改善の可能性

【研究の目的・背景】

DPP4 阻害薬は血糖降下作用のみならず、抗炎症効果や骨髄刺激効果などの副次効果を有する可能性が報告されています。今回の研究はこの副次効果が腎性貧血を有するCKD患者さんにも期待できるかどうかの検討を目的としています

【研究のために診療情報を解析研究する期間】

2016年9月9日 ～ 2020年12月（虎の門病院）

2016年8月24日 ～ 2020年12月（虎の門病院分院）

【単独/共同研究の別】

多施設共同研究

【個人情報の取り扱い】

お名前、住所などの個人を特定する情報は、日本透析医学会が全て暗号化・匿名化したデータベースを使用します。研究者は個人を特定することはできません。日本透析医学会統計調査の運用指針は日本透析医学会ホームページに掲載されています。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は虎の門病院腎センター・リウマチ膠原病科 星野純一のもと研究終了後5年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個

人が特定できない形で廃棄します。

【診療情報を虎の門病院外へ提供する場合】

診療情報は、虎の門病院で特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえたうえで、日本透析医学会統計調査委員会へ郵送・電子的配信で提供いたします。

【利用する診療情報】

毎年行われている日本透析医学会統計調査のデータを利用します。診断名、年齢、性別、身長、体重、既往歴、画像検査、糖尿病治療や貧血治療に関する経過、ヘモグロビンなどの検査所見を含みます。

【研究代表者】

虎の門病院 腎センター・リウマチ膠原病科 部長 星野純一

【虎の門病院における研究責任者】

同上

【利用する者の範囲】

虎の門病院分院腎センター部長 乳原善文
大阪大学腎疾患統合医療学准教授 濱野喬行
日本大学腎臓高血圧内分泌内科教授 阿部雅紀
東京女子医科大学血液浄化療法科准教授 花房規男

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報・検体（試料）の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身やご家族の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。
また、ご自身やご家族の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2018年3月31日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様には不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院腎センター・リウマチ膠原病科 星野純一

電話 03-3588-1111(代表)

虎の門病院分院腎センター・リウマチ膠原病科 乳原善文

電話 044-877-5111(代表)

日本透析医学会 統計調査委員会 電話 03-5800-0790